

○ストロメクトール錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 イベルメクチン Ivermectin 【分類】 駆虫薬

【単位】 ○3mg/錠

【常用量】 ■腸管糞線虫症：1回0.2mg/kgを2週間間隔で2回経口投与

■疥癬：1回0.2mg/kgを単回経口投与 [1~2週間以内に検鏡を含めて効果を確認し、2回目の投与を考慮] 1週間後に再診しダニの検出や新たな皮疹形成があれば、2回目の投与を行う [ヒゼンダニ卵の孵化は3~5日であるため] (日本皮膚科学会, 疥癬診療ガイドライン第3版, 2015)

【用法】 空腹時に水で経口投与 [食後投与不可]

【透析患者への投与方法】 常用量 (1)

【保存期 CKD患者への投与方法】 常用量 (1)

【特徴】 無脊椎動物の神経・筋細胞に存在するグルタミン酸作動性クロライドチャンネルに選択的に高い親和性で結合し、クロライドイオンに対する細胞膜の透過性が上昇して神経または筋細胞の過分極が生じ、寄生虫に麻痺を起こさせ死滅させる。ヒトでは作用部位がないので選択毒性が高いと思われる (1) 爪疥癬には無効。

【主な副作用・毒性】 意識障害, SJS, TEN, 血小板減少, 肝障害, 皮膚症状, 消化器症状など。

【安全性に関する情報】 肝障害の症例報告 (Hirota M, et al: Jpn J Clin Pharmacol Ther 42:341-343, 2011)

COVID-19 発症予防に10倍量の動物用製剤を投与され視力障害と運動失調をきたした9歳の症例 (Bhardwaj P, et al: Cureus 2023 PMID: 37038566)

COVID-19 予防に使用後3週間で肝障害発現した症例 (Sonderup M, et al: S Afr Med J 2023 PMID: 37278267)

【吸収】 高脂肪食により吸収率が2.57倍に上昇するので、空腹時投与が望ましい (疥癬診療ガイドライン第3版, 2015)

【F】 資料なし (1)

【tmax】 4~5hr (1) 12mg投与後のCmax 30ng/mL程度 (疥癬診療ガイドライン第3版, 2015)

【代謝】 肝にてCYP3A4により代謝 (1)

【排泄】 尿中回収率1%未満 (1) P-gpで輸送される (1)

【t1/2】 10~20hr (疥癬診療ガイドライン第3版, 2015)

【蛋白結合率】 93.1±0.2% (1)

【Vd】 脳内移行性は低い (1) P-gpの基質である (1) 4~5L/kg (疥癬診療ガイドライン第3版, 2015)

【MW】 B1a : 875.10, B1b : 861.07

【透析性】 資料なし (1) 低いと思われる (5)

【薬物動態】 血中濃度は効果の指標とならない (1)

【相互作用】 P-gpの基質 (1)

【主な臨床報告】 歴史・レビュー (Omura S, Crump A: Nat Rev Microbiol 2004 PMID: 15550944)

プラセボ対照試験により COVID-19 の軽症~中等症への適用は支持されない (Rezai MS, et al: Front Med (Lausanne) 2022 PMID: 35783616)

高用量でも SARS-CoV-2 ウイルス量を減らさない (Buonfrate D, et al: Int J Antimicrob Agents 2022 PMID: 34999239)

0.2mg/kg 単回投与による SARS-CoV-2 の PCR 陰性化までの期間はプラセボと変わらない (Wada T, et al: Front Med (Lausanne) 2023 PMID: 37283627)

【備考】 150Lの浴槽に錠剤を3~4錠入れて40~80ng/mLとして入浴させる治療法が検討 (野口 航, 他: 臨床薬理 45: S317, 2014, 木暮 聖, 他: 臨床薬理 45: S318, 2014)

【更新日】 20240814

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。